

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月25日 NO.90

花ちゃん 「オオイヌノフグリって、とってもかわいいお花なので、私は大好きです。」

モンタ博士「モンタ博士も大大大好きだよ。」

オー君 「でも、フグリって、キンタマのことだろう。だから、つまり、オオイヌノフグリって、イヌのキンタマという意味でしょ。だれがつけた名前だろうね。」



オオイヌノフグリの実

花ちゃん 「まー。お下品ですね。私、はずかし

いわ。でも、あんなにきれいなお花なのに、名前がどうも…ですね。」

モンタ博士「名前なんて、どうせだれかがつけたものさ。あんまり気にすることないよ。

それよりも、花を見て、そのとくちょうを自分なりにつかんで、自分で名前を考えてつけてしまうのもおもしろいと思うよ。」

オー君 「なーるほど。その通りですね。例えば、オオイヌノフグリじゃなくて、『青すじ飛行機雲花』とか…どうかな。」

モンタ博士「うん。なるほど。うまい。うまい。その通りだね。」

花ちゃん 「こんなのどうかしら。コバルトブルースモールフラワーなんて、どうかしら。」

モンタ博士「うん。なるほど。これもまたうまい名前だね。感心（かんしん）感心だね。もっと、もっと、いろいろな名前を考えてごらん。そのためにも、何度（なんど）も何度も、よくよく、観察（かんさつ）してごらん。」

花ちゃん 「本当にそのとおりですね。名前つけごっこをしましょう。私、また、ほかの名前を考（かんが）えちゃったんだもん。」

モンタ博士「ほほー。それは、感心だね。それで、それで・・・。」

花ちゃん 「オオイヌノフグリの花って、青でしょ。でも、そういう色を昔の人は、瑠璃色（るりいろ）といったそうなのよ。それで、つけた名前が『るり色小花』

どう？なかなか
おしゃれでいい
名前でしょ。」

オー君 「ほんとうだ。
ステキな
名前だな。おいら
ももっともっと
地面に顔をくっつける
ようにして、いろいろと観察するぞ。あ！こんなのどうだ。」



花ちゃん 「新しい名前考えたの。」

オー君 「発表します。花をよく見ると、二本の角が
あるみたいだから、『青色角（つの）だし花』
なんてどうかな。」



モンタ博士 「けっこう。けっこうだね。花にかけてに名前を
つけてはいけないなんてきまりはないからね。どんどん考えよう。楽しみな
がらやるんだよ。そうすると観察力ももっともっとなついてくるよ。」

オー君 「あれ？変（へん）だぞ。本当（ほんとう）に変だぞ。どうしてかな？？？」

花ちゃん 「どうしたの。オー君。何が変なの。教（おし）えて。」

モンタ博士 「また、何かを発見したみたいだね。どうしたの。」

オー君 「この前、オオイヌノフグリにさわったら、ポロンと花びらがとれたんだ。」

モンタ博士 「そうだね。オオイヌノフグリの花は、4つの花びらに分かれているようだけ
ど、花びらの下の方が、くっついているんだね。それがどうかしたのかい。」

オー君 「でも、おいらの言いたいことは、そんなことじゃないんだよ。つまり…」

花ちゃん 「つまり、何なのよ。早く言ってちょうだい。」

オー君 「つまりね、いま、おいらがさわっても、花びらがぜんぜんポロンと落ちない
んだよ。この前は、どうしてポロンと落ちたのかな。」

モンタ博士 「な、な、何と！！！！オー君は、そのことに気がついたんだ。すごい！！！！」